

地域福祉活動職員の

ま な こ

地域福祉活動推進のために

No.97

2025年 3月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

また、少子高齢化に伴う人口減少等の影響により、医療や福祉に関わる従事者も減少傾向にあるため、今後ますます民間企業や関係団体の力、商いの力と共に支え合っていく商助の視点も重要になってくるかと思えます。(自助・互助・共助・公助)

我々社協ワーカーは地域福祉の推進を目的に様々な活動を行っています。住民主体の地域づくりは、社協が住民に何かをしてあげるような住民を客体化するものではなく、住民と一緒に福祉のまちを創造していくことが大切です。

人の心を動かす社協ワーカーに！ ネゴシエーション力(交渉力)向上研修

☆とき 9月27日(金)

☆ところ クローバープラザ

セミナールームB

☆参加者 27名



商助の5助) そのため、様々な主体の参画による地域福祉を推進していくには、協議の場が不可欠であり、「現状との異なり・相手との距離を近づける活動」ネゴシエーション(交渉力)や、「お互いの意見の妥協点を見つける」折衝力を向上することが社協ワーカーにより一層求められています。

そこで、社協ワーカーとして必要な「交渉力」や「折衝力」、さらには「話し方」等について、事例や演習を通して学ぶために、本研修を企画しました。(大川市社協 野尻)

参加者からの感想

交渉を決裂させないための、
事前準備

日常業務で必要不可欠な傾聴力・説得力をはじめ、交渉の場では「どんな結果となっても決裂させないこと」が大切だということが理解できました。

講義後の交渉・対話ではグループ内で実践することで、学びがより深まったと感じました。話し合いの場でお互いの思いや考えを確認し合い、どのような方法であれば納得のいく交渉となるのか、それぞれの意見に相違がないようグループ内で明確にして取り組みました。

講義や実践を通して、お互いの利益や意見を尊重し合いながら交渉を行うには準備・情報共有が大切と学びました。講師が話された交渉前の情報確認、コミュニケーションテクニクを日頃の業務にも活かしてスキルを磨いていきたいと思えます。

(筑前町社協 平田)

目指すは、
三方良しの交渉

交渉と聞くと福祉の現場ではあまり縁のないことのように感じていましたが、実際に研修を受けてみると地域住民や事業所の方に協力を依頼する場面も、ある種の交渉であると学び、社協職員も日々交渉をしているのだと振り返ることができました。

研修の中で「交渉とは必ずしも自身の利益だけを追求するものではない」という話がありました。普段自分が地域活動を行うなかで、自分が良いと思うことばかりを勧めてしまい、「地域住民の声を疎かにしてしまっていないか」と日々の活動を改めて考え直しました。

交渉を経て実現した事柄が交渉相手だけでなく、地域にも利益をもたらせるような、三方良しとなる活動を実現できるよう励みたいと思います。

(嘉麻市社協 永末)



あなたの社協はどうしてる？
～私の知らない社協の世界～

☆と き 10月18日 (金)

☆ところ クローバープラザ

セミナールームA

☆参加者 21名

「地域課題」をテーマに各社協がどのように取り組んでいるのか、グループワークによる情報交換と協議を通して、見聞を深め、参加者一人ひとりがワーカーとして成長することを目的に全体会議を行いました。

地域課題が「地域（住民）のもの」であるからこそ、住民は地域課題に對して主体的に活動することができず。そのためには、地域課題に地域（住民）の考えや意思が反映されていることが必要です。

住民の考えや意思を反映させるためには、住民間での協議・共感が必要です。協議に至るには、住民との関係づくり、住民同士の関係性や社会資源の把握、ワーカーが見立てた課題を住民と共有・協議する場づくり等の事前準備が必要です。

ワーカー一人ひとりが、自分が関わる地域で何を必要とするのか、住民がワーカーに求めていることは何なのかを改めて見直し、今回の全体会議で出された他社協の取り組みやアイデアをどのように取り入れていくのか、考えていただきたいと思います。

今回の協議を通じてできたつながりが、資質向上につながることも、地域福祉の推進の一助となることを願います。(福津市社協 岩永)

参加者からの感想

社協のつながりは、
強みになる

地域課題の取り組みについて、他社協の地域性を感じる面白い案や、ユニークなサロンのネーミングなど、社協職員として柔軟な発想や視点を持ち合わせることの大切さを学びました。

そして、「地域課題」を同じ社協職員と話すことは、私自身とても勇気づけられ、原点を振り返るきっかけとなりました。

地職連の研修を通して改めて社協のネットワークやつながり、他社協を知る機会は「社協の強み」であると感じました。

これから業務をするにあたり日々悩むことがあると思います。その時には、今回の研修資料を見返し、自身が目指すワーカー像を模索しながら業務に励みたいと思います。

(那珂川市社協 松本)

地域課題は一人で抱えず、
みんなで考えていく

グループワークにて、他社協ワーカーからいただいた意見はとても参考になりました。様々な角度からの意見・アドバイスを聞く中で、「地域課題」に対して自分の視野が狭く、気づいていないことが沢山あると改めて実感しました。

また、社協ワーカーとして「地域」に関わり、「地域課題」を解決していくうえで社協間のつながりが重要だと強く思いました。「目で目は見えぬ」のだから一人で考えるのではなく、他社協ワーカーと意見を交え、広い視野で考えていくことが「地域課題」解決への第一歩になるのではないかと考えました。

この先、社協ワーカーとして働き続ける中で「地域課題」への直面はつきものです。他社協ワーカーと「地域課題」を共有し、意見交換が行えるような関係をつくるため、今後も研修へ積極的に参加をしていこうと思います。

(築上町社協 田中)



ノトトーク!

～被災地支援を振り返るワーカーたち～

- ☆と き 11月22日(金)
- ☆ところ 久留米市総合福祉センター
- ☆参加者 54名

「わたしたち社会福祉協議会が『災害ボランティアセンター』を運営する意義』は理解していると思います。『災害ボランティアセンター』を運営する社協を支援する意義』の視点は果たして持ち合わせているのでしょうか。」という疑問提起のもと、令和六年能登半島地震の支援経過を振り返りながら、講師・パネラー・参加者とともに学びを深めました。

今般の災害で甚大な被害を受けた穴水町社会福祉協議会からの活動報告では、自身が被災者でありながらも被災地支援に取り組む建前と本音、支援に携わった社協職員への感謝とエールがありました。

また、今般の災害や東日本大震災などで支援経験がある国東人の藤原さんからは、「被災地への本当の寄り添いとは」「被災の有無にかかわらず、社協が果たす地域福祉の役割とは」について、熱きご講演をいただきました。

さらに、ご縁あつて穴水町へ支援に行かれた福岡県内社協職員によるパネルディスカッションでは、支援前後の議論や、現地でのエピソードを交えながら、「なぜ、社協職員が社協を支援するのか」の前提や意義に関して、あらゆる視点や想いをのせたお話をいただくなど、とても熱く濃密な研修となりました。

プログラムのテーマの1つである、「被災地支援は“スタディ”か、“タスク”か、“ミッション”か」。

使い勝手がよく、聞きなじみのある、「勉強になりました」という言葉に強い違和感があり、本プログラムを設けました。それは、「災害ボランティアセンター」の運営が勉強になりました」という意味の言葉ではないかと思ひ、その言葉は時として、被災地社協への失礼にあたるのではないかと思つたからです。しかし、今回の研修から現地に行かなければわからない「勉強」もあると思ひました。

では、被災地社協へ支援に赴く「勉強」とは、そのことを通して、被災地社協や自社協で果たすべき「役割」「使命」とは。

この疑問提起を自身にも、社協にも常に持ちながら、本研修で学び得た、気づいた視点がこれからの地職連事業や各市区町村社協事業、社協職員としての活動・行動に、少しでも結びつき、より良い地域福祉・福祉教育につながることを切に願います。

(久留米市社協 荒木)



【基調講演】

被災現地社協が振り返る、 令和6年能登半島地震 ～穴水町災害ボランティアセンター の活動について～

報告者

穴水町社会福祉協議会

橋本 みすず 様(右側)、小川 奈美 様(左側)

令和六年一月一日に発生した能登半島地震では、能登半島の中央に位置する穴水町は全域で被害をうけました。

穴水町社会福祉協議会の橋本様、小川様より発災当初から現在までの活動内容や想い、今後についてお話しいただきました。

◆『つながり』の重要性

発災当初、携帯がつながりにくい状況で、なかなか情報を得ることができなかったとお話がありました。そうした中、平成十九年に発生した能登半島地震でつながりっていた特定非営利活動法人の方から情報を得ることができたとのことでした。

「つながりを持ち続けていたことで、有事の際にも信頼して相談や支援をお願いすることができた」とおっしゃっていました。

今回の震災でも、支援に来てくれた方が、新たなつながりを作ってくれたとお話がありました。

◆『NOといわない体制で
住民とつながり続ける』

平成十九年に起きた震災では、多様なニーズに対応することができず、依頼に対して「NO」と言いすぎてしまい、住民とつながり切れてしまったことを経験されたと省みていました。その経験から、今回はできる限り相談を受けて対応する姿勢を取り、住民に寄り添う意識をしたとのことでした。

地元社協だけではできないことでも外部団体と連携、協力することで、対応できるようになったとのことでした。

◆『ボランティアとのつながり』

長期間にわたりボランティア活動へ入ってくださる方、何度もしびーとして活動してくださる方が、独自の活動グループ「穴水レンジャーズ」を結成することになったと報告がありました。二十人ほどのメンバーで日頃から社協と情報を共有し、ボランティア活動だけでなく、災害VCの運営の一助を担っていただけの存在になつていくとのことでした。これも、ボランティアとの日頃の関わりを大切にしてきたことが大きかったのではないかと考えました。

【ゲスト講演】

被災地支援における "ミッション視点"とは

講演者

一般社団法人 国東人 代表理事

藤原 龍司 様

令和六年能登半島地震で穴水町、輪島市の支援活動に入られた一般社団法人 国東人の代表理事である藤原様から東日本大震災の支援経験も踏まえた、被災地支援についてのお話をいただきました。

◆被災地社協の
最大のミッションは、

『地域福祉の復興』

これまでの被災地支援の経験から、被災地社協が目指しているのは「災害VCの円滑な運営」ではなく、「地域福祉の復興」「被災者支援」であることをお話いただきました。

災害V Cの運営だけに視点を当てるのではなく、「被災者支援」を見据えて支援に入ること、被災地に寄り添った支援が実施できるのではないかと問いかけがありました。

平成二十三年に岩手県陸前高田市の支援に入った際、災害V C運営に注力してしまい、「地域福祉の復興」という与えられたミッションを忘れてしまっていたことが、今でも頭から離れないというお話がありました。

東日本大震災では、地震により親族を亡くした子どもたちとの関わりや、被災を免れた人たちに對する被災者からの妬みの心が生まれたエピソードを紹介していただきました。そうした関わりから「被災するとは、モノが壊れた、家が壊れた、大怪我を負ったなど物理的なものだけではない」「災害は目に見えるものだけでなく、人間の心の中も含めて、被災者を生み出す」と大変重要なメッセージをいただきました。

◆社協の使命は「地域福祉の推進」

災害V Cや地域福祉の復興は普段の地域福祉、地域づくりの延長上にあるとお話がありました。

福祉教育は、地域の基盤づくりのために実施されることから、「地域福祉は、福祉教育にはじまり福祉教育におわる」と言われています。災害時にも困った人を受け入れる力、助けて欲しいと言いつける受援力をもった地域づくりを日頃から実施していくことが重要とのことでした。



パネルディスカッション

被災地支援社協が振り返る、令和6年能登半島地震

～災害ボランティアセンターを運営する社協を支援する視点～

パネラー

- 久留米市社会福祉協議会
- 小郡市社会福祉協議会
- 大刀洗町社会福祉協議会
- 福津市社会福祉協議会
- 東峰村社会福祉協議会
- うきは市社会福祉協議会
- 須恵町社会福祉協議会

- 古賀 公浩 氏
- 能塚 治一郎 氏
- 池松 昌亀 氏
- 中島 浩 氏
- 和田 博 氏
- 國武 竜一 氏
- 山内 機長 氏

ゲスト

- 穴水町社会福祉協議会
- 橋本 みすず 様、小川 奈美 様
- 一般社団法人 国東人
- 藤原 龍司 様

コーディネーター

- 久留米市社会福祉協議会
- 荒木 裕太 氏

◆活動経緯について

「穴水町大好き職員」と称し、福岡県を代表する社協ワーカーでもある、まさに「胸熱」なパネラーが、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下、支援P）事務局から連絡を受け、穴水町の支援に入った経緯、活動内容などをお話されました。



平成二十九年年度に発災した九州北部豪雨の災害で支援をしていた、支援Pの方々からの要請をきっかけに、有志で何度も協議を重ねながら支援に入ることを決めたとのことでした。支援Pとしての派遣ではあったものの、被災地社協の職員の疲労感を

踏まえ、同じ立場で支える職員の代わりになるような支援を目指したとお話がありました。

◆長期間をつなぐ支援

単発の支援のみでは、被災地社協の職員が小まめにマツチングする必要があるため、疲労感が蓄積される経験から、一週間を帯としたクルール支援で長く被災地に入るようにされていました。

穴水町社協では職員も被災され、休みなく勤務されている方が多くおり、災害VCの運営、避難所支援、生活相談を同時並行で行っていました。

「地元社協職員に休暇をとつてもらうこと」を念頭に「長期的で職員同士がつなぐ支援」を実施したとのことでした。

パネルディスカッション

Qどのような被災地支援ワーカーに

来てもらいたいのか？

●穴水町社協 橋本氏

- ・穴水町のことを愛してくれる人
- ・丁寧にボランティアに関わってくれる人

被災地社協は、支援に来てくれる応援職員が力を発揮できるように

コーディネートする力も必要。

Q職場内の合意形成について

●穴水町社協 橋本氏

- ・職場内全員が同じ方向で活動することは難しい。
- ・組織的に動いていくことは意識する。朝礼で情報共有などをしていった。

Q「センターの指摘をしない」ということについて

●国東人 藤原氏

- ・被災地社協は、多忙さゆえにわかっているてもできないことが多い。
- ・それぞれの社協の状況に合わせて解決していくことが重要。

Q社協の存在意義、福祉教育について

●穴水町社協 橋本氏

- ・災害時も中学生など若い人の力は大い。今回の震災や平成十九年の災害の時も学生から社協に対して何かできることをさせてほしいとお願いがあった。

●国東人 藤原氏

- ・災害時には自助・互助の力が必要。「人と人とのつながり作り」や「思いやりの心」を平時から育むことが重要。

社協は住民と関わりながら、地域福祉を作り上げていく協

議体。

- ・助けて欲しいと言い合える関係、困った人を受け入れる力を育んでいくことが重要。

Q今後の福岡県内社協職員へ

- ・災害ボランティアの経験をしていくことは、被災地支援をする上で必要な経験。
- ・まずは、やってみること。できれば自分の意思で活動に行つてほしい。

被災地に支援をする際は提案をすることよりも、「自分でできること」、「特技」を活かしていく方がよい。

- ・「地元社協だけで良い」と思っていたら、本当に困った時に誰も助けてくれない。日頃からのつながり作りは重要。



参加者からの感想

困った時はお互い様

穴水町社協の橋本様、小川様、一般社団法人国東人の藤原様、令和六年能登半島地震支援P友情派遣福岡組の方々から、令和六年能登半島地震の災害ボランティアセンターでの活動について、貴重なお話を伺うことができました。

現在も穴水町では社協職員やボランティア、地域の民生委員など様々な方が協力、連携して活動されていることを知り、平時からのつながりが大切だと改めて感じました。また、福岡県から穴水町へ支援に行かれたパネラーの皆様が、「自分たちが被災した時に助けてもらったから、今度は自分たちが助けに行くん」と仰っていたことがとても心に残りました。

これから私も、地職連の研修の機会等を活用して、様々な社協職員の方々と「困った時はお互い様」と思い合え、頼り合えるようなつながりをつくっていきたいです。

私はまだ、災害VCの運営、支援に携わったことはありません。ただ、今回の研修で伺ったお話や想いを胸

に、被災地の住民や、社協職員のため、自分でできる支援をしていきたいです。

(古賀市社協 大塚)

同じ社協職員だからこそ、できる支援を

今回の研修では、被災地社協職員や災害VCに支援者として入った県内社協ワーカーの皆さんより、現地での活動や支援時の心構え等について、様々なことをお話しいただきました。

その中で、「社協職員が応援に来てくれたことで安心感を得られ、心から頼ることができた」「現地社協職員は発災時から休みなく働き、職員自身も被災されている状況。自身が支援に入っている期間は、現地職員が少しでも休みをとれるようにしたい」等の話があり、社協職員としての「災害VCを運営する社協を支援する意義」について、改めて考える機会となりました。

私自身、今年度初めて災害VCの運営支援に行かせていただきましたが、目の前の支援に精一杯になり、現地社協のために何ができたのか、度々考えました。

研修を通して、今後被災地の支援

時に、責任感を持つことと少しでも現地社協の手助けになることを改めて念頭に置き、支援に望みたいと感じました。(うきは市社協 井上)

平時からの福祉教育を初めとする地域づくりを

今回の研修で、特に印象に残った内容は、「災害時の地域福祉の復興は、普段の地域づくりの延長上にある」という国東人の藤原さんのお話でした。

災害時の自助・互助や困った人を受け入れる力は、学校や地域、専門職への福祉教育を行っていくことが大切であるとのことでした。

また、そのような支えあいの地域づくりは、社協だけで行うのではなく、社協は地域住民と協議を重ねて活動を行っていく団体であり、住民も一社協の会員として、一緒に地域づくりを行っていくことが重要とのことでした。

福祉教育を地域で実施していく際に、学校だけでなく地域住民や専門職と一緒に、思いやりのある地域について考え、災害時にも住民同士で支えあい・助け合えるような地域づくりを目指していきたいと考えました。(朝倉市社協 池崎)

令和7年度 総会・研修会のご案内

令和7年度 福岡県地域福祉活動職員連絡会 総会

- ◆とき 2025年5月中旬予定
※詳細な日程が決まり次第、メールやホームページ等でお知らせいたします。
- ◆ところ クローバープラザ
- ◆内容 令和6年度事業報告・決算・監査報告、令和7年度事業計画・予算案について など

総会后研修

- ◆とき 2025年5月 総会終了後
- ◆ところ クローバープラザ
- ◆内容 社会福祉協議会 基本要項2025を読み解く



☆押しワーカーの紹介☆

～福岡の将来を担う若手ワーカーたち～



七転び八起きの
精進で頑張ります。
よろしくお願いします。

いしばし かな
石橋 佳奈
政令市ブロック
(福岡市社協)



まごころ
真心

かわい まなか
河合 真心
筑豊ブロック
(桂川町社協)



信頼される職員
になる!

ながの かなこ
長野 哉子
福岡ブロック
(新宮町社協)



**とにかく
やってみる**

どい いった
土井 一太
両筑ブロック
(小郡市社協)



笑顔と
ユーモアで
地域を元気に

おばた かいき
尾畠 海希
筑後ブロック
(広川町社協)



笑顔と
思いやりを大切にし
よろしくお願いします。

たなか りな
田中 里奈
(福岡県社協)

発行者：福岡県地域福祉活動職員連絡会

事務局

〒830-0027 福岡県久留米市長門石 1-1-34

久留米市社会福祉協議会 担当：荒木

TEL：0942-34-3035

FAX：0942-34-3090

Mail：yarak@heartful-volunteer.net

H P：http://f-chishokuren.org/



▲HPはこちら

編集後記

令和七年一月の研修会に、宮城県からオンラインで参加された方がいらつしゃいました。まなこやホームページで、活動を随時見えていますと温かいお言葉をいただきました。頑張る意欲がわきました。改めて、社協のつながりを感じました。
(Y・I)